
Fantastic War

池波創路

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fantastic War

【Nコード】

N7883Y

【作者名】

池波創路

【あらすじ】

『Fantastic War』
トリプルデー

DDD社が開発した次世代型ゲーム。

全世界で絶大な人気を誇り、社会現象を起こしている。

現実世界の”人間”がゲーム内の”人間”を操作する。

操作するプレイヤー、操作されるキャラクターの駆け引きがゲームの流れを左右する。

冴えない人生を送る向田宗佑は、このゲームと出会い、新たな人生を歩むことになるのであった。

※あらすじは仮です。今後、内容によって追記します。

プロローグ

今日もまた仕事がなかった…。

「くそっ。」

啞えた煙草を足元に捨て、足で踏み消す。

スマートフォンを片手に不精髭を生やした男は駅へ向かい歩いていく。

むかいだそうすけ
向田宗佑 28歳、無職。

世間ではアラサーなんて言葉が定着しているが、俺から言わせれば耳障りな言葉だ。

元々は会社勤めのサラリーマンだったが、数ヶ月前にリストラされた。

なかなか次の職は見つからず、日雇いのアルバイトをして、なんとかその日暮らしをしている状態だ。

人生終わってるよな。

このまま残りのつまらない人生を平凡に過ごし、死んでいく。

そう思っていた。

あのゲームと出会うまでは…。

「昨日のあれ見た？」

「ああファンウーだろ？見た見た。」

「1人腕なくなってたよね。」

「あれってやっぱマジなの？」

「わかんねーやらせて話もあるらしいよ。」

電車の吊り革に捕まり、『Fantastic War』と書かれた電車の中刷り広告に目をやる宗佑。筋肉質な男が銃を持ってポージングしている広告だ。持っている銃はおそらくM4カービンだ。コルト社が開発したアサルトカービンでアメリカ陸軍でも使用されている。無駄に知識はある。俺はミリタリーな映画が好きだ。

『Fantastic War』とは最近流行っているゲームである。いや、最早流行っているを通り越して、社会現象になりつつある。若者たちの間では「ファンウー」とか「ファンタ」、「非現戦争」なんて呼ばれてる。日本人は呼称を付けたら、略すのが本当に好きだ。

ファーストパーソン・シューティングゲーム

いわゆるFPSというジャンルで、一人称視点のプレイヤーが敵味方に別れて銃で撃ち合い、勝敗を競うゲームだ。俺も昔やったことがあるが、画面を覗いているだけで酔ってしまい、何が面白いのかわからなかった。まだ、サバゲーの方が面白いと思う。まあサバゲーはやったことはないのだが…。

FPSなんてジャンルは特定の層の人間にしか好まれないジャンル

なのだが、このゲームが爆発的にヒットしたのは、理由がある…。

ゲームの中で実際に操作するキャラクターがプレイヤーと同じ、現実存在する”人間”なのだ。

俺らの世代からすれば、ゲームといえばテレビゲームが主流だった。テレビゲームも年々進化を遂げ、インターネットの普及によってゲームもネットに繋げてプレイするのが当たり前になった。俺がゲームに興味を持っていたのはこのぐらいの技術のときで、今はさらに進化を遂げている。

詳しい技術は俺もうろ覚えなのだが、ゲーム内の操作キャラクターは実際の”人間”であり、現実世界のプレイヤーはゲーム内の操作キャラクターと脳がリンクすることで、自分の分身のように操作することができるようになるらしい。

例えば、モニターの前で自分がジャンプをすれば、ゲーム内の操作キャラクターも同じようにジャンプをする。これは、脳科学の進歩により、”人間”の脳に固有の番号を与えたチップを埋め込み、別の人間からそのチップへ命令となる信号を直接脳に送ることが可能となったからである。

この技術はB L C (B r a i n L i n k C o m m u n i c a t i o n)と呼ばれている。

数年前から仮想空間（現実には存在する場所だが、プレイヤーには非公開）で、別の”人間”を自分の分身として生活させ、仮想空間内でコミュニケーションをとることができる『D r e a m E x p 』がヒットしたことで近年爆発的に普及した。『D r e a m E x p 』

は10年以上前に流行した、SNSソーシャル・ネットワーキング・サービスの中でつくる自分の分身、アバ

ターのようなものだ。実際の”人間”を購入し、自分の好みの服を着せ、仮想空間で自分の分身のように操作するのだ。

あるものは、人気モデルを操作し、仮想空間の雑誌の表紙を飾る。

あるものは、金持ちを操作し、每晚ギャンブルに溺れる。

あるものは、イケメンを操作し、每晚違う女と一夜を共にする。

またあるものは、現実とは正反対の性別を操作し、違う人生を歩む。

実際操作しているプレイヤー側は、モデルとはほど遠いデブスだったり、彼女いない歴〓年齢の童貞だったりするのだ。

現実世界でできなかったことができる夢の世界、今とは別の人生を歩めるといった声がユーザーから挙がり、『DreamExp』は大ヒットとなった。これにより、同開発会社であるDトリプルディーDD社から新たに登場したのが『Fantastic War』なのである。

また『Fantastic War』は、ネット上で毎回プレイの様子が配信され、プレイしていない人にも観るエンターテイメントとして絶大な人気を誇っている。ゲーム内では、毎回ランキングがつけられており、ランキング上位のゲームキャラクター、それを操作するプレイヤーはスター扱いされている。

こんなゲームが流行っているなんて世も末だな…。

宗佑は電車の入口付近の空いた座席にゆっくりと腰を下ろした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7883y/>

Fantastic War

2011年11月23日15時52分発行